



\*\*\*\*\*

言語研究センター共同研究

# ロシア語習得基準の研究

## 新しいロシア語習得基準策定のための諸問題の検討

堤 正典・小林 潔

大学における非専攻課程の外国語教育は、専攻課程に比べて非常に少ない時間数で行なわなければならない。しかし、当然一步一步ステップアップ

することはおろそかにできず、そのなかで、できうる限りの実用性を盛り込むことが理想である。すでに、ロシア本国や日本におけるロシア語検



定試験では、各級の合格基準が（ある程度）公表され、事実上の習得基準となっているが、いまだ広く普及しているわけではない。

これらの既存の習得基準を検討し、また、既存のロシア語教材を検討するなかで、非専攻課程に（さらには Semester 制にも）対応するロシア語習得基準を確立することを目指している。このことは、非常に必要性が高いと考えている。日本人に対するロシア語教育を念頭においており、日本におけるロシア語教育の実践での経験、日本語とロシア語との対照研究などの成果もふまえて検討する必要がある。

まず、既存のロシア語教材（日本・ロシアで2001年以降発行のものを中心とし、そのうちでも非専攻課程で用いるのに適したもの）における語彙・

文法・表現等を検討している。現在は、主として神奈川大学横浜キャンパスでの外国語科目ロシア語初級を念頭において検討を行なっている。また、ロシア連邦におけるロシア語検定（ТРКИ）やその基盤となっているEUのCEFRなど、既存の習得基準について非専攻課程での適用を検討している。

このふたつの検討結果を結合しつつ、非専攻課程に対応する新しい習得基準の完成をめざす。上にも書いたとおり、ロシア語教育の実践的经验や、対照言語学的研究の成果も取り入れて検討して行く。

ロシア語を用いるための背景となる知識（レリア）についても、どのような知識が必要となるかを習得基準に連動させて検討している。

\*\*\*\*\*